

教育最前線

連載 4

さらしな
ドリームモータースクール昭和 [長野県更級農業高等学校 交通安全教室]

高校生自らが交通安全について 様々な視点から考えるプレドライバー教育

ポイント① 交通社会人としての 自覚を持つための入口

指導を担当したドリームモータースクール昭和と教育課課長補佐の三浦剛基さんは「自動車免許を取得できる年齢となる高校

5月28日、ドリームモータースクール昭和(長野県長野市)で長野県更級農業高等学校の3年生を対象にした交通安全教室が開催された。ドリームモータースクール昭和は、地域の交通安全センターとしての役割を果たすために、10年以上前から自動車免許取得前の高校生を対象にプレドライバー教育を行っている。この日は12名の指導員が4つのセクションに分かれ、生徒138名を指導した。

高校生が興味を持って交通安全を学べるように、ドリームモータースクール昭和の指導員たちが工夫を凝らした指導を展開した



ポイント② クルマや自転車の動きを 見せながら、 その特性を理解してもらう

3年生に、自分の行動には自分で責任をとらなければいけないという交通社会人としての自覚を持つってもらうことが、この交通安全教室の目的です。このため、歩行者、自転車利用者、ドライバー、障がい者等、様々な視点から交通安全を考えられるように工夫されている。



ポイント③ 自転車はドライバーから どう見られているか

交通安全教室の中には走っているクルマ、バイク、自転車を見て、その速度を考

交通安全教室は言葉で説明するだけでなく、クルマや自転車の動きを見せながら、高校生に考えてもらう内容になっている。例えば、生徒が日頃利用する自転車では、二人乗りや携帯電話でメールをしながらの運転を生徒の代表者数名に行ってもらった。正しい運転と比べると、自分が行きたい方向にうまく進むことができなかつたり、フラついたりする。「その様子を見ている生徒に、自分たちが何気なくやってしまう行動の危険性を感じてもらいたいと考えています」と三浦さん。

交通安全教室の4つのセクション

Section 1 クルマの停止距離

ドライバーがブレーキをかけて止まるまでには、速度に応じた距離がかかることを確認する。また、20km/hの時のクルマの停止距離を示し、速度が40km/hになった場合、どのくらい停止距離が長くなるか生徒たちに予想してもらった。実際に速度が2倍になったら、停止距離は2倍以上になることを見せる。



次に引率している先生に教習車を運転してもらった。生徒の代表者4人もそのクルマに同乗。指導員は先生に「40km/hで走行し、手旗の合図を確認したら、ブレーキを踏んでクルマを停止させてください」とだけ伝える。しかし、実際は手旗で合図を出さず、クルマが見通しの悪い交差点にさしかかる手前で、別の指導員が歩行者に見立てた障害物をクルマの前に飛び出させる。何も知らない先生はあわててブレーキをかけるが間に合わず、障害物はクルマの下敷きになってしまう。急な飛び出しには、ドライバーが対応できないことを学ぶ。



Section 2 自転車の正しい乗り方

生徒が自転車の二人乗りで坂道をその先に立っている指導員めざして下る。指導員の合図で指定された方向に回避。一人乗りの時に比べて、緊急時の操作が困難で危険であることを確認してもらう。



生徒に携帯電話のメールに指定された文字を入力しながら、自転車を運転してもらい、その他の生徒に曲がり角などで大きく外にふくらんだり、フラつく様子を見もらう。



Section 3 速度感覚と見え方

生徒が自分に向かって走ってくるクルマ、バイク、自転車を2~3秒間見て、どれが一番速いかを当てる。「クルマが速い」と答えた生徒が多かったが、実はどれも速度は30km/hであり、見えている車体の大きさで感じるスピードに差が生じることを指導員が説明した。



Section 4 視覚障がい者の保護

生徒が2人1組になり、障がい者役、障がい者の介助役を交互に体験。障がい者役の生徒は目隠しをして、介助役の人の横に並んで手を引いてもらいながら歩く。目の不自由な方の立場を体験するとともに、どのようなサポートが適切かを考えるきっかけにしてもらう。



えるセクションがある。「自分たちに向かって来るものの速度を判断するのは大人でも難しいことです。同じスピードが出ていた場合、自転車は最も遅いと感じる傾向があります。つまり、自転車利用者は速く走っているかと思っても、周囲を走るドライバーはそう感じていないことが多いわけです。生徒のみならずには、自分と同じように他の人も思っているわけではないとい

うことを常に意識してほしい」と、三浦さんはこのセクションのねらいを話す。
高校生に意識や行動を変えてもらうためのきっかけ
更級農業高校では毎年継続して、交通安全教室を行っている。同校の山田六男教諭は、「高校3年生はクルマの運転への興味や意欲が高まっている時期なので、このタ

イミングで交通安全について考えることはたいへん意味があると思います。現実にある交通場面での危険を生徒自身に実感してもらえる貴重な機会です」と評価する。
交通安全教室が普段の生活の中で、「これは注意しよう」と意識や行動を変えてもらうきっかけになってほしい。それが三浦さんをはじめとするドリームモータースクール昭和の指導員の願いだ。